

轟 と ど ろ

平成21年4月28日

4月号

本年度は全校児童11名でのスタート

春の陽射しを浴びて、山々の木々も勢いを増し若葉まぶしい良い季節となりました。お陰様で平成21年度も順調にスタートを切ることができました。本年度は、泉第一小学校に転出しました那須教頭に代わりまして、日奈久小学校から永松教頭が着任しました。

3月に3名の卒業生を送り出し、新たに1名の新入生を迎えて全校児童11名で頑張りますので応援をよろしくお願い致します。

新一年生一人だけの入学式に住民みんなが参加



8日(水)にたった一人されど大切な大切な一人の新入生・山村愛美さんの入学式を挙行了しました。入学を祝って地域内外からたくさんの方々に列席いただきました。親戚みなさんも参列のなかで、愛美さんは、明るく元気な返事ができました。上級生みんなから、いつも可愛がられています。今日まで学校を一度も休まないでニコニコしながら勉強に頑張っています。

全国学力学習状況調査を実施

21日(火)に新6年生と新中学3年生の児童生徒を対象に、全国学力学習状況調査いわゆる全国学力テストが、すべての公立小中学校で一斉に実施されました。国語と算数・数学および興味関心・意欲態度を調査し、学力や学習状況を把握分析を行って成果と課題を検証の上、今後の指導改善に役立てる目的で行われました。その結果は、後日、各学校に届くことになっています。

さて、その問題ですが、国語・算数ともに基本的な問題Aと身につけた知識を使って活用する問題Bとなっており、当てずっぽうで回答する問題はありません。特に問題Bは、昔の問題とは全く異なり自分の考えを文章で答えたり、単なる計算ではなく生活に活用した問題となっています。現在の学校教育は、覚え込み一辺倒の学習を改善し、知識を身につけ生かすことに取り組んでいます。これからは知識をもとに自分の意見・アイデアを出すなど活用力が求められています。裏面に今年の問題を一部掲載しています。



校長コラム

1年が過ぎるのは早いもので、年齢を重ねるごとに年々そう感じる。50才を過ぎると毎日があまり代わりばえしない一年が繰り返されているようにも思える。ところが、子どもたちの一年は全く違う。字さえも読めなかった1年生が、たった1年間で本をスラスラ読み、意味さえもちゃんと理解する。字を覚え、心のこもった短い文も書けるようになる。今年度から6年生は週1時間の英語に親しむ学習が始まっており、彼らはとても充実した中身の濃い1年間を過ごす。それに比べ我が身を振り返れば、加齢とともに人の名前が思い出せなかったり、きのう食べた晩ご飯のおかずさえも忘れることもある。今後も何となく代わりばえしない日が続けば、脳の活動も衰退し、なお一層あつという間に一年も過ぎてしまうのではないかと心配している。

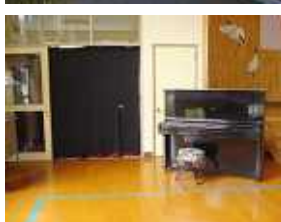
今しきりに言われるのが、遙かなる夢ではなく手の届くところにある目標を持つことが大切ということだ。それは、目標達成に向けて、いつまでに何をするとといったマイペースの計画と実動が求められ、脳の活性化が図られるということだろう。ところで小生の目標は、猫の額ほどの畑に種から育てた四季折々の花や野菜を一年中育てることである。そのために週末は、自宅菜園で鍬を片手に一日中汗びっしょりの肉体労働に励んでいる。目標達成に向け野菜の連作障害に悩みながら脳の衰退防止に努力している。

21年度の教育スローガンは

見えるものに目をくぼり、見えないものに気をくぼり、相手を思って心をくぼり、すぐ行動できる子どもをめざして「目くぼり、気くぼり、心をくぼって、すぐ行動！」のスローガンを掲げ、心をたがやす活動を通して教育目標の達成に取り組みます。



左は、いつもの通学路です。目をくぼれば、その片隅に一輪のすみれ、その逞しさと愛らしさに目くぼりができる子どもに育てたい。



左は、体育館の袖です。暗幕で仕切っています。見えない所も「片づいているだろうか」と、そこまで足を運び気くぼりができる子どもに育てたい。



左は、欠席した子の机です。「病気は治ったかな。帰ったら電話してみよう。」と相手を思う心くぼりができる子どもに育てたい。



周囲に気づく感性、思いやる優しさ、そして「すぐ実行する」行動力を育てる教育を進めます。

教師主導から児童主体へ



今年度は、大人への依存・指示待ちを脱却するため、全ての子ども一人一人に学年に応じた内容で責任を持たせます。計画から全体を引っ張る役割を位置づけて、自分で考えて動く・動かす力をつける活動に力を入れます。具体的には、低学年が給食、中学年が八小タイム、高学年が自主活動や昼休み縦割り活動そして部活動を担当します。それを各学級で細分化して一人一役が任せられ学校全体をリードします。先日行った児童集会では、担当の丸山玲奈さんが司会進行し、5・6年生で考えたクイズ大会で下級生はとても喜んでいました。入賞者には、金・銀・銅メダルが首にかけられました。人は誰も始めは難しく考えがちですが、回を重ねるごとに要領が分かり、力をつけていくようになります。「任せる」ことは人の心の成長を促します。放任ではなく、手も口も出さないで目をくぼり、ポイントでゆさぶりをかけます。